
いつかどこかの物語

十月夜月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかどこかの物語

【Nコード】

N 6 6 7 6 Q

【作者名】

十月夜月

【あらすじ】

このお話はほんとのお話。
むかしむかしのおとぎ話。
どこかで誰かが落としてった
ほんとにほんとの2人のお話。

誰もが知ってる『赤ずきんちゃん』のお話はほんとのほんとは恋のお話。

赤ずきんちゃんとおおかみさんのあつたかぁーい恋のお話。

どこかのどこかで間違えて

おおかみさんは悪者に。

恋した娘を食べようと

襲いかかったおおかみさん。

そんな悪者に仕立てられ。

このお話はほんとのお話。

むかしむかしのおとぎ話。

どこかで誰かが落としてった

ほんとにほんとの2人のお話。

あつたかぁーい

恋のお話ー・・・

く強気な赤ずきん×惑わされるおおかみさんく

「ふんふふふーん」

どこかの国のどこかの森で真っ赤な頭巾をかぶった娘は鼻歌歌いながらスキップしてた。

「らーんらーん」

おおきなおおきなバスケット持ってスキップしながら進んでく。

「おおかみさん、おおかみさん？今日は何処に居るのかしら？」
あたりをきよろきよろ見回して誰かを探す女の子。
真っ赤な頭巾の女の子。

「早くでてきておおかみさん！今日はあそこに行かないと」

こまったこまった頭巾ちゃん。おおかみさんが出てこない。
もつときよろきよろ見回して姿をさがす頭巾ちゃん。

「！あら？おおかみさん！こんなところにいたの？どうして出てきてくれなかつたの？」

とある大木のうしろのところ。しゃがみこんでるおおかみさん。
ムスッと不機嫌おおかみさん。

「あらあらおおかみさん。なんだか不機嫌、どうしたの？」
のぞきこんだ赤ずきん。そっぽをむいちゃうおおかみさん。

「わたし、なにかしたかしら？もしそうだったらごめんなさい。お願いだからこつちを向いて？」

泣いちゃいそうな赤ずきん。震える声に耐え切れず、振り向き顔見るおおかみさん。

「ちがう、違うよ赤ずきん。お前が悪いわけじゃない。」

「やっと見たわねおおかみさん？無視するなんてひどいじゃないの」
振り向き見つめた頭巾の顔はどこか無敵な素敵な笑顔。

泣き顔なんてかけらもない。

「またかよ、これかよ赤ずきん。おまえはいつも俺をだます。呆れたかおするおおかみさん。」

ちよつとほつとするおおかみさん。

「いえいわたしはだましてないわ。無視するあなたが悪いのよ？」にやにや笑う赤ずきん。真つ赤な頭巾は無敵のしるし。

「ところでところでおおかみさん？そろそろ理由を教えてちょうだい？どうして今日は不機嫌なの？」

気になる気になる赤ずきん。おおかみさんに聞いてみる。

「だっておまえは遊んでくれない。今日は何処に行くつもり？」用事があつた赤ずきん。今日は一緒に遊べない。

それがさみしいおおかみさん。いつでも一緒に遊びたい。

「あらあらわがままおおかみさん♪そんなにわたしが恋しいの？」ますますにやにや赤ずきん。

お顔が真つ赤なおおかみさん。

「どうせどうせ、さみしく思つたの、俺だけなんだ。」

悲しい声したおおかみさん。再びそつぽをむいちゃった。

「こまったこまったおおかみさん♪とってもかわいいおおかみさん♪こんなかわいこほつとけない。」

優しくなでなで赤ずきん。

おおかみさんの頭をなでる。

「さみしく思つた俺だけなんて、あなた本気で思つてる？」

悲しい声する赤ずきん。わたしの想いは届いたかしら？素直なあなたに届いたかしら？

不安になつちやう赤ずきん。

いきなり立ったのおおかみさん。
赤ずきんを抱きしめた。
大きな腕で抱きしめた。
あつたかな心で抱きしめた。

「本気で思うわけがない。おまえのことはわかってる。優しい優しい赤ずきん、今日はお見舞い行くんだろ？森のはずれの小さな家で1人で寝ているお前のばあさん。さみしくなっていないかって、今日もお見舞い行くんだろ？」

「おおかみさんはあつたかい。心も体もあつたかい。そんな貴方がだいすきよ」

ふふとほほ笑む赤ずきん。素敵な笑顔で無敵に笑う。

おおかみさんはドッキドキ。

頭巾の真赤に負けないくらい、お顔を真っ赤に染めている。

「あなたはどうなの？おおかみさん。あなたはわたしを好きかしら？」

「おまえはいつもそうなんだ。分かっているのにあえて聞く。」

「ほんとの言葉や想いなら直接聞かなきゃ意味ないわ。あなたの声で聞かせてちょうだい？あなたの言葉で伝えてちょうだい？」

おおかみさんの腕の中、優しく微笑む赤ずきん。

真っ赤な顔したおおかみさん。腕の中の小さな頭巾。

とても愛しく想ってる。いつでもお前を想ってる。

大好きだけじゃ伝えきれない。もっと大きなこの気持ち。

きつとお前は気づいてる。きつとお前は知っている。

そんな俺のこの気持ち。

知っているのにいつも聞くんだ。それで俺を困らせる。

でも赤ずきん。おまえはいつでも本気だった。

そんなお前に気付けなかった。

俺はいつも逃げてばかりで、お前にちゃんと云えなかった。

なによりお前に伝えたい。大事なお前に伝えたい。

「逃げててごめん、赤ずきん。俺もお前が大好きだ。この世で一番愛してる。」

頬をつたい流れてく、赤ずきんのその涙。光のように輝いて。海のように透き通る。

「ずっと聞きたかったその言葉。やっとあなたは云ってくれた。あなたの声で伝えてくれた。」

いつも強気な赤ずきん。

惑わされるのおおかみさん。
いつもより、ほんの少し素直になって
ほんの少し勇気を出せば
伝えられるのその想い。

どこかの国のどこかの森で
いつも強気な赤ずきん。
惑わされるのおおかみさん。
だけど今日はなんだか違うの。
いつも強気な赤ずきんはいつもは惑わされるおおかみさんの
大きな大きな腕の中で
その温かさに惑わされ
頭巾も顔も真っ赤っか。

「おおかみさん、おおかみさん。わたしはどこにも行かないわ。あ
なたの隣にずっといる。
だからそろそろ離してちょうだい？」

おかみさんの腕の中、
ぎゅっとされてる赤ずきん。

「こまったこまったおおかみさん。これじゃあ用事に遅れちゃう。
今までよりもっと強い力。」

赤ずきんを抱きしめる。

「あなたも来てみる？おおかみさん。」

ちよつと緩まる大きい腕。

「え？」

「わたしと一緒にいってみる？おばあ様に会ってみる？どうせいつかは会うのなら別に今でもいいわよね？」

無敵な笑顔の赤ずきん。

意味が分からぬおおかみさん。

「俺にはお前が分からない。いつか会うとはどんな意味？」

「だって一緒にいるんでしょ？いつも一緒にいるんでしょ？それってああいう意味じゃない？」

真つ赤な真つ赤なおおかみさん。

楽しそうな赤ずきん。

「それじゃあそろそろ行かなくちゃ。この手を離して？おおかみさん？」

やっぱりやっぱり変わらない。

赤ずきんは楽しそう。

おおかみさんをからかって真つ赤にするのが好きみたい。

てくてく歩く赤ずきん。

おおかみさんは動けない。

2人の間はぐんぐんあいて、赤ずきんはおいてっちゃん。真つ赤なおおかみおいてっちゃん。

そこから動けぬおおかみさん。
「やっぱあいつにや敵わあねえ」
ニツツと笑って走り出す。
赤ずきんとこへ走り出す。

走って走って追いついて。
腕をぐつと引つ張って、
バツと振り向く赤ずきん。

いきなりキスするおおかみさん。
不意打ち狙ったおおかみさん。

呆然とする赤ずきん。
勝ち誇った顔のおおかみさん。
唇ペロツとなめてみる。
とたんに真つ赤な赤ずきん。

俺もやられっぱなしじゃない

心の中で呟いて

ぐんぐんぐんぐん歩いてく。

真つ赤な顔した赤ずきん。
おいていっちゃんおおかみさん。

どうやら今日はなにかが違う。

さてさてこれからどうなるのやらー・・・

誰かが落としたお話は
みんなが幸せハッピーエンド。

赤ずきんも

おおかみさんも

みんな一緒に暮らしてる。

一番愛しい人とともに

この物語は語り継がれ

間違い話は捨てられる。

今日生まれたおとぎ話。

それを貴方は知っているー・・・

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6676q/>

いつかどこかの物語

2011年10月8日17時53分発行